個が生きる音楽科の指導と評価

―第５学年「合奏と重奏」の実践を通して―

井　坂　雅　浩

１．はじめに

人が音楽に興味を持ったり好きになったりするきっかけは，思い通りの演奏や表現ができたときの達成感もあろうが，演奏を聴いてすばらしいと感じた時や，良い曲だと感じた時のほうが多いのではないかと思う。また，聴いて感じた以上の表現はできないといわれるように，表現や創造性のバックボーンとなるのも鑑賞力であると思う。鑑賞する力と鑑賞する心を混同して論じるつもりはないが，鑑賞する力を育成することが鑑賞する心を育むことにもなるし，鑑賞する心が育まれれば鑑賞する力も次元の高いものになるものだと考える。感動できる音楽との出会いは，他人が意図的につくれるものではないが，鑑賞力をつけることがそのチャンスを増やすことになるとも考える。

本校の研究テーマの副題にもある「自己を高める評価力の育成」に関連して，鑑賞指導の立場から，音楽への関心・意欲・態度の面と学習内容の面から自己評価や相互評価を位置づけた授業を構成してみた。

以上のような考えから実践した「合奏と重奏」という主題から，特に，シューベルトのピアノ五重奏曲「ます」の鑑賞指導の授業に焦点を当てて報告することにする。

２．指導事例

(1)　主題について

『楽器の組み合せによる表現の豊かさを感じ取ったり，表現したりする』という学習主題である。高学年では，音や声の重なり・旋律の重なりといった和声的な指導が中心になってくるが，ここでは，楽器による各パートの重なりや役割を表現や鑑賞を通して学習するものである。教材曲としては，・ピアノ五重奏曲「ます」・遠い国のおとぎ話・キリマンジャロを使用する。

ピアノ五重奏曲の第４楽章は，歌曲「ます」のテーマを主題とし５つの変奏とコーダをもつ変奏曲形式で書かれているために「ます」という表題がつけられたものである。変奏はどれも主題の面影をはっきり残しているので分かりやすく，主旋律を受け持つ楽器もはっきりしていて曲想をつかみやすい。主題が変化しつついろいろな楽器で演奏されるおもしろさを味わわせると共に，ピアノ五重奏の楽器の響き合う美しさを感じ取らせたい。

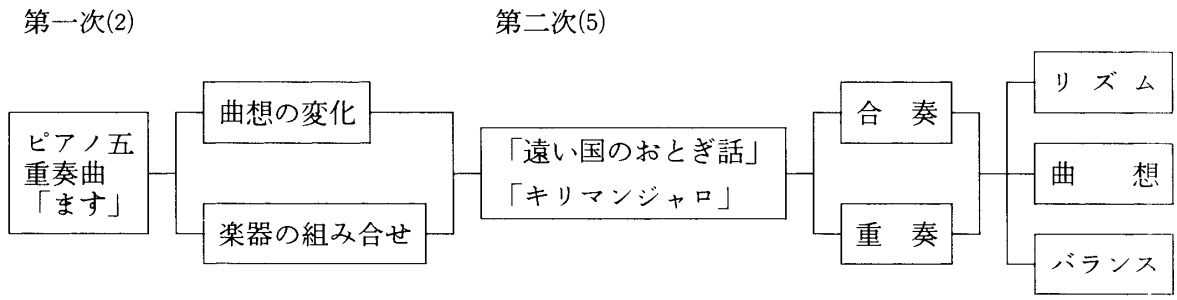
(2)　指導目標

①　ピアノ五重奏曲「ます」の変奏のおもしろさを味わって聴かせる。

②　曲想と音楽的要素を結びつけて聴くことができるようにさせる。

③　リズムや曲想を生かし，バランスのとれた合奏をさせる。

(3)　指導内容と計画 …… ７時間（本時　第一次　第２時）



(4) 授業設計の焦点

この曲は，歌曲「ます」の主題が，ピアノ五重奏によっていろいろな形に変奏されている。ここでは，ふしがどの様に変奏されたかとか，それぞれの楽器はどの様な音がするかといった知的理解の面よりも，それぞれの変奏で，ますの泳ぐ様子の変化を想像するという情的面からの印象を大切にする。その中から，リズムや調の変化といった音楽の要素について気付くように仕向け，音楽を分析的に捉える高い鑑賞力を育てたい。また，気付きや感想を全体で話し合うことにより聴き取り方の多様性に気付かせていくと共に，個を生かす評価を加えていく。さらに，自分の聴き取り方や学習への取り組み方を自己評価する場を設け，本時で分かったことや，次時での課題などを確かなものにさせるようにする。

(5) 本時の目標

音楽の要素に気づき，各部の曲想を聴き取り味わわせる。

(6) 準備

・鑑賞ＣＤ　・学習カード

(7) 評価の観点

音楽への関心・意欲・態度	演奏の様子を思い浮かべたり，楽曲の特徴などを意識して聴き取ろうとしている。
音楽的な感受や表現の工夫	場面や情景を思い浮かべて聴き取り，自分の思いを表現することができる。
表現の技能	
鑑賞の能力	変奏による曲趣の変化を，音楽的要素と結び付けて聴くことができる。

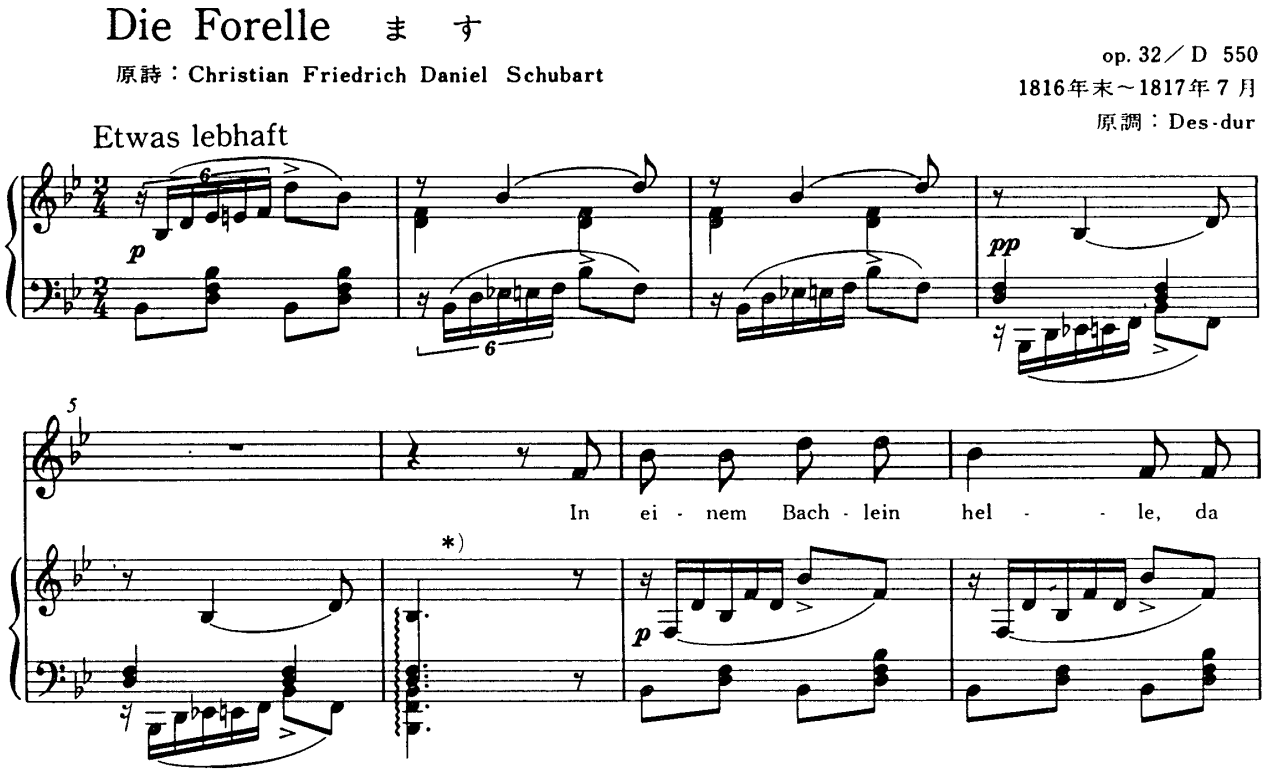
(8) 指導過程

学　習　過　程	指　導　上　の　留　意　点
1．本時の課題をつかむ。 ↓ 歌曲「ます」を歌う。 ↓ 2．主題と変奏の曲想を聴きとり感想等を発表し合う。 ↓	1．前時の学習を想起させ，基になる主題のふしが様々なかたちのふしに変化しているが，それによってますの泳ぐ様子がどの様に思い浮かべることができるかを課題とする。 ・「ます」を歌い，伴奏が表現している音楽の様子にも気づかせ，学習の導入とする。 2．曲想と音楽の要素を結びつけて聴きとらせるために，次のことに留意する。

各部の曲想 音楽の要素 速さ　リズム　ふし　調　音色	○ますの泳ぐ様子の変化を想像しながら，変奏ごとに区切って聴かせる。 個人個人の印象を発表する場を設ける。 ・友達と自分のイメージを比較する場 ・いろいろな聴き方のあることを知る場 ○「音楽のどんなところから，そう思いましたか」という発問をする。
3．本時で学習したことを確かめながら，全体を通して聴く。	3．音楽そのものの楽しさ・おもしろさ・美しさを，本時で学習したことを思い浮かべながら鑑賞させる。
4．学習カードで自己評価を行い，本時のまとめをする。	4．自分の学習への取り組み方・本時で分かったことやもっと知りたいこと等を記述させ，次時への意欲化を図る場とする。

(9) 児童の活動と主な反応

学習過程の１で歌曲「ます」を歌った際，教師の弾いたピアノ伴奏（下楽譜）からどんな様子が思い浮かぶか考えさせた。



児童が思い浮かべた主な様子は，次の通りである。

- 川の流れ
- 水が小さな波になって次から次へと押し寄せてくる様子
- ますが元気にすばしっこく泳ぐ様子

「それはなぜか，音楽のどんなところからそう感じたのか。」という発問に対して，児童から出た意見は，次の通りである。

- こまかい音符のふしが繰り返し出てくるのが，水の流れや波の様だ。
- 低い音から高い音に勢いよく上がっているのが，ますが元気に泳いでいる様子を表しているようだ。

思い浮かんだ様子や理由を発表した児童を，想像したことの具体性やふしの特徴や音形をよく捉えているという観点から評価した。

想像した事柄やその理由も，全員でなるほどと納得した上で，同じ音楽でも人によって聴き取り方が違ってくるが，ピアノ五重奏曲「ます」の各変奏を様子を思い浮かべながら聴いてみようと学習過程の２に入った。

ピアノ五重奏曲「ます」の各変奏を区切って聴かせ，思い浮かんだ様子を速さ・リズム・ふし・調・音色等の変化と関連させて，以下のように記述させ発表させた。

変奏1

・主題に比べ，元気よく泳いでいる。
・勢いが良くなった。ピョンピョンはねて楽しそう。
※テンポが速くなったから。
※ピアノが加わって，トリルなどで飾りをつけているから。

変奏3

・何かに追われているように，暴れている。
・はしゃぎ回っているのかバシャバシャしている。
・川が濁って，ますが見えない。
※すごくテンポが速くなったから。
※楽器のひき方（音色）が激しいから。
※ピアノがメロディーのふしをじゃましてかき消しているから。

3．指導後の考察

児童に，学習過程の4で自己評価させた3点の結果と自由記述の内容から，本時の授業を分析してみる。（人数は，5年各クラスの結果を合計したものである。）

①音楽の表しているようすを考えながら，熱心にきいた。

5	4	3	2	1
		ふつう		
29名	36名	11名	3名	0名

ぼんやりときいた。

②ふしの変化などをきき取ることができた。

5	4	3	2	1
		ふつう		
26名	31名	20名	2名	0名

よくきき取れなかった。

③今日の学習はおもしろかった。

5	4	3	2	1
		ふつう		
40名	25名	12名	1名	1名

おもしろくなかった。

①は関心・意欲・態度の観点についての結果であるが，4段階と5段階の評価をしている児童を合わせると，全体の82.3%をしめる。また，自由記述の中から①の観点に関連するものを挙げると，

・今日は，なぜかいつもよりすごくまじめに集中してできたので，うれしかった。（男子）
・今日の学習は，何回も発表できたので楽しかった。
・変奏ごとに，ますの様子が変わっていって，1匹のますの一生を描いているようにも聴こえました。（女子）
・みんな熱心にがんばっていて，とても良かったと思う。それに，音楽の聴き取り方が，なんとなく分かったような気がする。（女子）

以上のことから，かなり高い割合で意欲的に取り組んだことが伺える。また，自分の取り組み方のみならず友達の学習態度についても満足していることが分かる。これは，導入段階での本時のめ

あてのもたせ方が具体的で興味を引くものになったのではないかと考える。

②は学習内容についての観点である。これも4段階5段階の評価をしている児童が，全体の72.2％でかなり高いと思う。

・音楽の曲というものは，強弱やリズムで様子が変わることが分かった。（女子）

・長調から短調への変化が聴き取れた。（男子）

・同じ曲でも，人によっていろんな思ったことがあるんだなと思った。（男子）

・むずかしかった。（男子）

・今度やるときは，ふしの変化をよく聴こうと思います。（女子）

各変奏について思い浮かんだ様子を記述できなかった児童は一人もいなかったが，音楽の要素と関連づけることや，音楽の変化を聴き取ることに困難さがあったため，ややポイントが下がったのだと考える。

③については，50.6％の児童が5段階をつけている。

・時間がたつのがすごく速かった気がしました。また，じっくり聴いてみたいです。（女子）

・楽しそうな感じがして，私も気分が良くなったような気がしました。（女子）

・音楽は，いろいろな様子を思い浮かべることが楽しくできると知りました。（女子）

これは，様子の思い浮かべやすい曲であった。また，そのため多様な意見が出て活発な授業になったなどの原因が考えられる。

4．成果と課題

本時の授業を，若尾先生（広島大学）岩木先生（本校ＯＢ）山村先生（本校ＯＢ）の三氏に参観して頂いた後協議したことを，以下のようにまとめた。

(1) 音楽の要素に気付かせる活動について

・子供から音楽の要素についての発言があったとき時間があれば，本当にそうなっていたか気付いていない子供に確認させるなどフィードバックすることが必要だと思われる。

・主題，変奏1，変奏2，変奏3，変奏4，変奏5の違いはコントラストがはっきりしていないと分かりにくい。変奏3で大きく変化したとき子供達から「わあー」っと声があがったのは，変奏1・2で，違いをしっかりおさえていた成果と思われる。

・音楽の楽しさやインスピレーションでは右脳が使われ，今のはどの音だったか考えたり楽譜に書き取るときには左脳が使われる。今回の授業は理性の勝った判断力を高める授業であった。音楽を味わうことと分析的に考えることは同時にはできないから分析・総合の繰り返しが必要になってくる。分析的な力も音楽の楽しさを広げるものであるのでどちらも欠かせないものである。最終的には楽しかったなど音楽を味わえるかどうかが重要である。

(2) 評価について

鑑賞を指導するとき，指導する側の意図するようには感じ取れない子供達の感想もすべて受け入れる。それは能力のあるなしには関係なく発達段階などにもよるものである。教師が子供の感じたことを知るには文章法などがあるが，同時に書いている時の子供の表情も見ていくことが大切である。

感動できる音楽との出会いは，他人が作れるものではなく，教師はただその可能性を少し提示することができるだけである。評価にはマーキング，エバケイション，アセスメントがあるが，今後更にマーキング主体からアセスメント主体へなっていくことが大切である。

自己を高める評価力ということで，子供の力を育てていくことは，今一番注目されている。子供がしようとすることを教師は援助していく。子供がしようと思うには子供自身がまずねらいが何かをわかることが大切である。